

去る 7 月 18 日 (土)、第 8 回医療通訳士協議会 (JAMI) 総会とシンポジウム 2015「医療通訳者から見た現場の課題」が、大阪大学吹田キャンパスで開催されました。前日の 17 日は、西日本に上陸した台風 11 号の影響で、航空便、鉄道など主要な交通機関が大幅に乱れ、その余波は、台風が去って太陽が見え隠れする 18 日当日にまで及びました。交通機関が止まってしまったことで、ご参加頂けなかった方々も多数いらっしゃいました。開始前は、どれくらい集まってくれるのだろうと大変心配いたしました。最終的には 80 名を超えるご参加を頂き、無事にすべてのプログラムを終了することができました。これもひとえに、医療通訳に携わる人達の熱い思いと、医療通訳に向けられた関心の高さ故だと思います。皆様、心から感謝申し上げます！

以下、一部ではありますが、当日の様子をご報告させていただきます。是非ご一読頂き、ご意見等ございましたら、末尾にあります JAMI 事務局までお寄せ下さい。

## 医療通訳士協議会 (JAMI) 第 8 回総会

報告：中村 安秀 (JAMI 会長)

**医療通訳士協議会・活動報告(4)**

- 2014年7月 医療通訳士協議会・第7回総会(大阪)
- 2014年12月 臨時理事会開催
  - 組織整備ワーキング・グループ(WG)、認証WGの設置
- 2015年2月 外務省・IOM主催「外国人の受け入れと社会統合のための国際ワークショップ」に参加(中村・村松)
- 2015年2月「平成26年度医療通訳基礎研修」  
全国市町村国際文化研修所(JIAM)(中村・井田・南谷・村松)
- 2015年6月台湾・輔仁大学「医療通訳国際会議」に参加(中村・瀧澤・竹迫)
- 2015年7月「医療通訳フォーラム2015」(東京都・大田区)  
(多文化医療サービス研究会)(西村・沢田)
- 2015年7月 医療通訳士協議会・第8回総会(大阪)

**医療通訳士協議会の今後の活動**

- 期待される活動
  - JAMIの法人化に対する準備
    - 一般社団法人化する
    - 医療通訳士を中心とした組織に再編成する
    - 財政的な基盤を固めていく
  - 医療通訳の必要性和重要性に関するアドボカシー
    - 認証、研修・教育のあり方に対する意見をまとめる
    - 他の学会とも連携して、社会的認知を高める努力を行う
    - 関係官庁やメディアに対して、積極的に働きかける
  - NGO・国際交流協会などの情報や意見の交換
  - ホームページの充実
  - 医療通訳士に関する研究
    - 外国人の医療に関する研究
    - 医療通訳士を導入することによる効果
  - その他
- 今後の総会の開催地
  - 2016年 東京
  - その他

総会では、2014 年度の JAMI の活動を報告したあと、今後の JAMI の組織のめざす方向について、中村安秀会長から説明があり、会員からの質疑応答がありました。具体的な論点は、次の 3 点でした。

### 1) JAMI の法人化に対する準備

2016 年の JAMI 総会 (東京で開催予定) において、一般社団法人になれるように組織の整備をめざす。医療通訳士を中心にした組織に編成し、年会費を徴収するなど財政的な基盤を固めていく。

### 2) 医療通訳の必要性和重要性に関するアドボカシー

現在、厚生労働省をはじめ、外国人の医療受入れに関する環境は急速に動いている。認証ワーキング・グループを中心に、認証、研修・教育のあり方に対する意見をまとめたい。2009 年に設立し医療通訳士の地位の向上を目指してきた JAMI の立場をアピールしつつ、他の学会などと連携して、社会的な認知を高めるために関係官庁やメディアに対して積極的に働きかけていきたい。

### 3) NGO・国際交流協会などとの情報や意見の交換

ホームページが新しく充実したので、会員の方々に情報交換の場として、より一層活用していただきたい。

**日本における医療通訳士の現状**

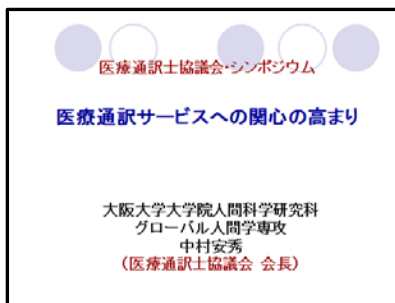
- 大都市および外国人集住地域の医療機関(病院、診療所)および保健センター
  - 外国語を話す医師や看護師の配置
  - 外国人の医師・看護師などの保健医療専門職
  - 医療通訳士(常勤、非常勤、派遣、ボランティア)
  - 外国語に堪能な日本人、日本語に堪能な外国人
- 医療通訳士に対する講習会の実施
  - 行政、NGO、国際交流協会などが実施
  - (神奈川県、三重、愛知、京都などの都道府県、枚方市などの市町村)
  - 大学における講義など
    - 大阪大学「大学院高度訓練プログラム-医療通訳」
    - 東京外国語大学「国際医療通訳講座」
    - 愛知県立大学「医療分野外国人言語スペシャリスト講座」
    - 神戸ユニテ「特別提供科目「医療通訳」コーディネーター入門」
- ITによる外国人医療支援モデル
  - 電話による救急医療支援サービス
  - 遠隔医療通訳システム
  - 医療用自動翻訳システム

**医療通訳士をめぐる問題提起**

- 包括的な医療通訳システムの確立が喫緊の課題
  - 国民皆保険のもと、患者を階層化するのではなく「公平な医療サービスを提供してきた理念を尊重し、在住外国人が利用可能な医療通訳システムを優先的に確立すべき。その医療通訳士の認証、教育・研修制度を自治体外国人や医療ツーリズムに活用できるように制度設計を工夫する。
- 医療通訳の費用負担を患者に求めない
  - 健康保険における医療通訳加算などの形を考慮し、医療保健福祉サービスの中に医療通訳士制度をきちんと位置づけていく必要がある。
  - 健康保険法の診療報酬算定(診療報酬点数表)や病院機能評価に医療通訳士加算などの方法で、位置づけていく必要がある。
- 聴覚障害者を包摂するコミュニケーション支援の必要性
  - 従来の行政の縦割りの障壁を超えて、保健医療における患者のコミュニケーション支援という大原則に立脚したシステムが求められている。
- 医療通訳サービスのICT化
  - テレビ電話などを利用して、発着言語による医療通訳サービスを提供できる全国規模でのビジネスモデルが必要である。

## シンポジウム「医療通訳者から見た現場の課題」

報告：南谷 かおり（JAMI 理事）



シンポジウムでは、最初に中村安秀会長による医療通訳サービスへの関心の高まりについてのお話がありました。日本における近隣アジア諸国出身の在留外国人や訪日外国人の数は急激に増加しており、それに伴い医療の国際展開の必要性が問われていることや医療通訳士をめぐる様々な問題が提起されました。

次に、南谷かおり理事から、現在開講中の社会人向け医療通訳養成コースの紹介が

ありました。この養成コースは、厚生労働省のホームページに掲載されている医療通訳養成カリキュラムに基づいた阪大病院国際医療センター主催の阪大エクステンション講座で、37名の受講生が毎週土曜の午後に聴講しており、現場研修を含め全部で112時間のコースとなっています。

メインのシンポジウムでは、医療通訳者3名から、各自の経験談や現場の課題のお話を伺いました。岩本弥生氏は、医療機関への派遣通訳としての立場から、寺嶋幸司氏は、手話通訳としての立場から、そして木村ガーリー氏は、病院雇用型の国際医療コーディネーターの立場から、それぞれが医療通訳者のモチベーションや現在の問題点、また今後の改善点についてなどを話し合いました。フロアからも活発な質問があり、現場で活躍している3名ならではの、臨場感あふれる討論会となりました。



## 第1分科会「専門職としての『医療通訳士』を考える」

報告：村松 紀子（JAMI 理事）

昨年の分科会では、様々なバックグラウンドを持った人たちが参加されたために、1時間半で議論が収束しなかったという反省から、今年の第1分科会は、医療通訳者のみがラウンドテーブルにつき、関係者がオブザーバーで参加するという形式をとらせて頂きました。医療通訳者が主役の団体にしていくという医療通訳士協議会の方向性が発表されたことで、この総会を医療通訳者が自分たちの活動を自らどう考えていくかを、議論できる場所にするのが狙いでした。



興味深かったのは、医療通訳では、他の通訳ではあまり見られない徒弟制（ベテランの通訳者の仕事を見ながらトレーニングを積んでいく）をとっている団体があり、OJT（On the job training）が難しい医療通訳という仕事の特徴とともに、経験を伝えていく過程が重要であると考えさせられたことです。ベテラン通訳者について学ぶ機会のない通訳者は、研修などでロールプレイを多く体験しておく必要があります。また、「語学力」以上に重要な「倫理」を学ぶために、「資格化」より「研修」や「継続学習の機会」が必要であり、研修を受けずに医療通訳をすることは危険であるとの指摘もありました。

また、報告書についても、報告書の書き方から、それを今後どう活かしていくのかなどについて、活発な意見交換がなされました。報告書を病院に提示して、意識を変えてもらうのに積極的に利用したい、という意見も出ました。医療機関も、費用負担があってはじめて意識が変わります。例えば、医療者のために「医

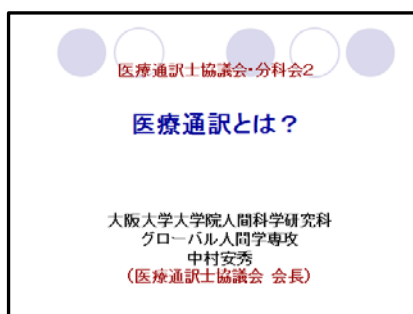
療通訳者の取り扱い説明書」を作成しようとのアイデアもでした。

手話通訳の方からは、通訳が一部の通訳者に集中することで「頸肩腕症候群」などの職業病を発症するため、「仲間を増やすことは自分を守る」という切実な意見が出ました。

こうしたことから、医療通訳の制度化に向けて議論をするとき、現場にいる医療通訳者が何を考えているのか、どうすれば仕事がしやすくなるのか、と言ったことを、言葉にしていかなければいけない、今後も継続して議論をすすめることが必要である、との見解が示されました。

## 分科会 2「通訳案内士が知っておきたい医療通訳のいろは」

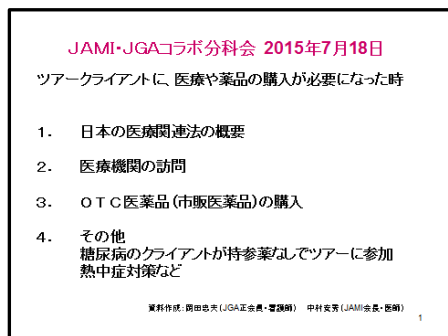
報告：中村 安秀（JAMI 会長）



一般社団法人日本観光通訳協会（JGA）とのコラボレーション企画として実施しました。

はじめに、中村安秀会長が、外国人医療のなかでの言語と文化の重要性を指摘し、日本における医療通訳士の現状と課題を説明しました。

次に、李節子副会長が「医療通訳と保健医療福祉」として、グローバル化と国際移住がすすむなかで、すべての人の安全と安心のために医療通訳の必要性と重要性を訴えました。また、長崎県における観光目的の外国人医療の重要性とともに、地域特性を踏まえた医療通訳育成について説明しました。



続いて、「ツアークライアントに、医療や薬品の購入が必要になった時」という岡田忠夫氏（JGA 正会員・看護師）が中心になって作成されたスライドをもとに、通訳案内士の方々の実践に役立つ活発な情報交換と意見交換が行われました。参加された通訳案内士の方は約 25 名でしたが、熱心な討議も行われ、引き続いて開催された懇親会においても、楽しく有意義な意見交換が行われました。

以上

医療通訳士協会（JAMI）事務局：小笠原 理恵

[jami@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:jami@hus.osaka-u.ac.jp)

<http://www.jami-net.jp/htdocs/>